

第3章

4. 災害時の情報の収集と活用②

副読本
30～31ページ

年 組 番 氏名

近年の津波避難時の行動・意識			
地震名	千島列島東方の地震	千島列島東方の地震	東北地方太平洋沖地震
地震発生日時分	2006年11月15日20:14	2007年1月13日13:23	2011年3月11日14:46
マグニチュード	7.9	8.2	9.0
津波警報の種類	津波	津波	大津波
最大津波高(観測所)	0.84m(三宅島坪田)	0.43m(三宅島坪田)	19.6m(南三陸町志津川)
死者・行方不明者	なし	なし	18,456名(警察庁)
調査場所(サンプル数)	根室市, 網走市, 釧路市(600名)		岩手県, 宮城県, 福島県の沿岸地域(870名)
避難率 ※ ¹	46.7%	31.8%	57%
避難したきっかけ(複数回答, 上位3つ) ※ ²	① 津波警報を聞いたので(67.9%) ② 市や町が避難を呼びかけたため(50.0%) ③ 家族が避難しようと言ったので(39.3%)	① 津波警報を聞いたので(57.4%) ② 市や町が避難を呼びかけたため(50.0%) ③ 家族が避難しようと言ったので(42.6%)	① 大きな揺れから津波が来ると思ったから(48%) ② 家族または近所の人が避難しようと言ったから(20%) ③ 近所の人が避難していたから(15%)
避難しなかった理由(複数回答, 上位3つ) ※ ³	① そのときいた場所が危険とは思わなかった(54.0%) ② 防波堤や防潮堤を越えるような大きな津波は来ないと思った(36.8%) ③ 根室などで来襲した津波の高さが0.4m程度という放送を聞いたので(29.9%)	① そのときいた場所が危険とは思わなかった(43.4%) ② 2006年に津波警報が出たが、たいした津波が起きなかったため(34.5%) ③ 防波堤や防潮堤を越えるような大きな津波は来ないと思った(21.2%)	① 自宅に戻ったから(22%) ② 家族を探しに行ったり、迎えに行ったりしたから(21%) ③ 過去の地震でも津波が来なかったから(11%)
津波警報を見聞きした割合 ※ ⁴	82.2%	81.2%	83%
津波警報の入手手段(複数回答, 上位3つ)	① NHKテレビから(70.3%) ② 民放テレビから(50.0%) ③ 市の広報車から(25.0%)	① NHKテレビから(61.6%) ② 民放テレビから(42.0%) ③ 市の広報車から(24.6%)	① 防災無線から(52%) ② ラジオから(17%) ③ 消防の車や人から(7%)
避難指示等を見聞きした割合 ※ ⁵	78.3%	65.3%	45%
避難指示等の入手手段(複数回答, 上位3つ)	① NHKテレビから(58.9%) ② 市の広報車から(49.6%) ③ 民放テレビから(31.2%)	① NHKテレビから(51.4%) ② 市の広報車から(50.5%) ③ 民放テレビから(27.9%)	① 防災行政無線から(45%) ② 消防車や人から(22%) ③ ラジオから(10%)
避難に関する特徴事項	2006年に避難した人は約半数(46.7%)であり、2007年は31.8%である。避難しなかった理由として、2007年には「2006年の津波がたいしたことなかった」が約30%となっている。		

3 上の避難しなかった理由などから、地震などの災害が起こったとき、どのように避難行動をとればよいかを考えましょう。また、警報の意味について話し合い、その意見を書きましょう。

4 災害発生時、災害を過小評価してしまうなどの心理状態になることがあります。これを防ぎ、命を守るためにはどのように行動することが大切かを考え、まとめましょう。